

あさがおと自分の好きな花

2つの花を育てることで価値ある気付きを！

札幌市立山鼻南小学校 能登 貴章

1年生の栽培活動では、花を育てることが多いのではないでしょうか？そこで、あさがおと自分の好きな花の2種類を育ててみてはいかがでしょう。あさがおを鉢植えにして、自分の好きな花は教材園に植えるという具合にするのです。

比較することで
気付きを生む！

あさがおと
自分の好きな花を
比較することで！

自分の好きな花と
友達の花を
比較することで！

あさがおと自分の好きな花とを比較したり、自分の好きな花と友だちが植えた別の種類の花とを比較することでさまざまな気付きが生まれます。

あさがおと自分の好きな花の二つの花を育てることで、子供たちは、花にもいろいろな違いがあるということに気付いていきます。自分の好きな花の種を見た時に「あさがおの種とは形が違うなあ」「あさがおの種は月みたいな形だったのに、コスモスの種はバナナみたい」などと種の違いに気付きます。

また、子供たちが、それぞれに自分の花を育てることで、いろいろな種類の花に目が向いていきます。友だちと花の種を見せ合い、いろいろな形があることに気付きを広げていきます。葉が出てきた時にも、あさがおの葉の形と比べたり、違う花を植えた友だちのものと比べたりしていきます。

いつも、あさがおと自分の好きな花、自分の花と友だちの花を見比べながらお世話を続けていくのです。





栽培活動は、春から秋まで長期間にわたって植物にかかわっていく活動です。植物に大きな変化が見られる時期には子供の関心が高まるのですが、あまり変化のない時期には関心も薄くなりがちです。そこで、長期間にわたって花に関心を向け続けさせるために、活動構成をもうひと工夫してみましょう。

あさがおと自分の好きな花の種をまく時期をずらしてみるのです。

あさがおが芽を出し、少し成長した頃になるとあさがおに大きな変化が見られなくなり、子供たちのあさがおへのかかわりも薄くなっています。

しかし、そのころもう一方の自分の好きな花が芽を出し始め、今度は、自分の好きな花へ目を向け熱心にお世話を始めるようになります。自分の好きな花が少し伸びてきて変化がなくなる頃にあさがおのつるが倒れるようになって棒を立てなくてはならなくなる……。子供の関心は、あさがおや自分の好きな花に行ったり来たりしながらも花へ向け続けられています。

あさがおが芽を出し、双葉、本葉と顔を出し少し成長した頃に、自分の好きな花が芽を出します。長期間栽培していく中で、自分の好きな花よりもあさがおの成長の方が常に先行するのです。

このことにより、花を育てたことがなかつた子供たちも、成長の見通しをもつことができます。芽が出た後は、「いつ双葉が出るかな?」「次は本葉が出るね」というように。

